

令和4年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和4年7月5日（火） 9:30~11:30

場所：高知城ホール4F 多目的ホール

出席：委員10人中、8名が出席（代理出席1名含む）

議事：（1）観光分野の令和3年度の進捗状況及び令和4年度の当初計画について
（2）観光分野の令和4年度の重点取り組みの進め方について

※意見交換概要

（森部会員）

- ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の取り組みが急遽入ってきたのは、非常にありがたい。良い起爆剤になると思う。
- ・草花ガイドの養成等、サステナブルへの方向性と一致しているため、らんまんの取り組みが、そのままサステナブルの取り組みにもなると思う。
- ・現在、放送中のNHKの連続テレビ小説は沖縄が舞台となっている。その沖縄から、成功事例、失敗事例等を聞くなどの交流を行ってはどうか。
- ・それ以外の過去の事例等を参考としているのかお聞きしたい。
- ・沖縄も自然・文化・歴史の側面からSDGsに沿ったサステナブルな方向で考えているが、大きな枠では分かりにくいので、具体的にファッションに集約していた。サステナブルをより具体的に見える化することは大切であると考えている。
- ・このように日本全国で、サステナブルを活用した情報発信を行う動きが出ているので、高知県も早く動く必要がある。2025年には関西・大阪万博も控えているので、それまでに香川県と言え、うどん県といったように、サステナブルと言え高知県という流れを作る必要がある。そのためにも、早めに大々的にサステナブルをPRする必要がある。
- ・まず、かつお、日曜市などの高知の代表的な素材を打ち出して、後追いでどんどん発信しないと、他県に先を越されてしまう。

（山脇観光振興部長）

- ・朝の連続テレビ小説のテーマは違えど、他県のような事例をNHKから紹介いただいて参考にしている。また、ドラマがどういう展開になっていくのかといった情報が、非常に大切であり、そういった情報を収集しながら、集約してしっかりとその部分を磨いていく。
- ・また、セールス、プロモーションについてアドバイスをいただいたりしているが、高知県のPRは強いとの意見をいただいている。引き続きNHKと連携するとともに、高知県以外の牧野と関係する機関と相互送客を行いながら全国との連携を図る。
- ・NHK連続テレビ小説「らんまん」が終わった後は、始まる前よりも良くなるよう取り組みを進めていきたい。「らんまん」はサステナブルと非常に親和性が高いことから、博覧会を通じてサステナブルの空気を高めていきたい。
- ・他県もサステナブルの取り組みを進めており、世界の潮流となっているため、サス

テナブルは必須であると考えている。

- ・そのためにも高知県のサステナブルの本当の強みや他の地域が真似できないものを素材にしていけないといけないと考えている。
- ・いろんな切り口があると思うが、最終的には国際認証を取るくらいの強さでないと世界から見て高知を目的地にしてくれない。今後、他県にはないコンテンツを作っていく。それが本県観光の一番の大きな課題であるため、色々な方から意見を聞きながら進めて行く。

(三井部会員)

- ・先日、牧野植物園で研修があり、その中で、徳島空港、モネの庭、牧野植物園、徳島空港という弾丸ツアーがあったと聞いた。
- ・高知にとって宿泊をしていただくことは重要である。そのためにも牧野だけに偏りすぎるとそれだけで終わってしまう。
- ・以前に、高知駅に集合し、路面電車で文殊通りまで行き、遍路道を使い竹林寺で写経を行い、竹林寺を見学して牧野植物園でランチといった国際交流イベントを行ったが、このように牧野植物園以外にも竹林寺などのお遍路等と連携すれば、宿泊に繋がると考える。
- ・また、私が以前にはりまや橋トリプルクロスを発見して話題となったが、路面電車の1日乗車券を活用して、お遍路道を歩き牧野に行った後に、路面電車で高知市内の街巡りなどを行い、高知を1日楽しんで宿泊してもらえるような仕組み作りを行うことが大切であると考えている。

(山脇観光振興部長)

- ・牧野に行って日帰りで帰るケースはそれほど多くないが、宿泊数を増やしていかないといけないのは確か。牧野植物園と様々な施設を組み合わせる。そのため竹林寺との連携も大切であると考えている。色々な形で増やしていきたい。
- ・路面電車はサステナブルツーリズムの素材として、歴史もあるし、トリプルクロスもあり生かしていきたい。
- ・My 遊バス購入の方は路面電車に乗れるようなセット券などを増やして電車に乗っていただくような仕組みを活用しながら工夫していきたい。

(天野部会長)

- ・路面電車は良い。いろんな種類があり古さに魅力を感じる。そのような魅力を高知に来る前から知らせる事ができれば良いと思う。

(赤池部会員)

- ・龍馬伝の時期の県外観光客入込数を見させていただいたが、県の朝ドラにかける想いを強く感じた。
- ・高知県で中長期的に進めて行く、サステナブルツーリズムについて、既存の観光資源、体験を理由付けして、サステナブルっぽくしているというのが現状ではないか。そうなってくると他地域との違いが曖昧になり、「田舎っぽい、自然」での言葉で濁してしまい、高知らしさが曖昧になってしまう。
- ・そのため、ストーリー付けが重要で、そのストーリーに科学的なエビデンスをどう担保するのが大切となる。県がエビデンスを担保することが大切である。
- ・路面電車がサステナブルな理由は、多くの方が利用すればCO2の排出が少なくなる

が、実際は多くの県民は車を利用している。エビデンスをしっかりと整理しないと、何となく使用しているエビデンスが横行してしまい、田舎っぼいからサステナブルとなってしまう。客観的に提示できる仕組みが大切。

(山脇観光振興部長)

- ・サステナブルの大きなくくりでいくのはなかなか大変である。
- ・高知にしかないコンテンツでないと埋もれていく。庁内でも議論している。
- ・一定絞って行く必要はある。「必ず行きたいところがあってその周辺を紹介する。」ような打ち出ししか、「高知にはたくさんサステナブルがある。」とするのかといったところを様々な方から意見を聞きながら進めたい。将来への大きな基軸、重要な分岐点となっているので、色々な意見をいただいきたい。

(町田部会員)

- ・牧野博士の魅力は、死ぬ直前まで1つのことに探求し続けた情熱である。高知県は、豊かな野山等、本質的にそのように学べる環境があった。
- ・このような環境は、子どもにとっては学びの場であり、高齢の方には野山を歩く健康維持の場でもあり、健康、スポーツなどの体験型の学びにも結びつけることができる。学びの柱を入れると外国の方や移住を考える親子なども興味を持ち、より豊かなコンテンツになるのでは。

(鎌倉部会員)

- ・龍馬伝の当時は、実は全国の観光地をほとんど知らない中で関わっていて苦労したが、その後全国各地をバイクでまわったので、その際に感じたことを参考でお伝えしたい。コロナ禍でバイク業界は活況を呈しており、バイクツーリングする人がずいぶん増えている。
- ・バイク乗りの視点で旅行先を選ぶ動機や行って感動したポイントを整理してみると、まず「あそこの〇〇が食べたい」という食があり、県内にも「ひろめ市場」、「チキン南蛮の鳥心」、「ひばり食堂」、「かいだ屋」、「かね春」などの人気のお店等がある。行政としては難しい点はあると思うが、そうしたお店の情報をもっと旅行者に伝える工夫をしたらいいと思う。
- ・「有名で一度は行ってみたかった」場所として、県内では「桂浜」、「はりまや橋」、「四万十川」、「沈下橋」などが挙げられるだろう。このような場所には、行ったことの証拠となるその場所の名称と一緒に写せるフォトスポットがあれば記録と記憶に残るので、喜ばれるはず。
- ・「圧倒的なスケール」を感じられるものとしては、県内では「雄大な太平洋」、「四国山地の険しさ」しか思いつかないが、インパクトのある写真で視覚的に訴えることができれば、良いコンテンツになると考える。また、「映える写真のスポット」として「にこ淵」、「モネの庭」、「長沢の滝」などがあるが、現地のどこでいい写真が撮れるかを検証し、同じく名称も写り込むようにサイン整備などを行ってはどうか。
- ・「歌や物語に出てくるところ」としては、県内では、「竜とそばかすの姫」、「らんまん」の舞台になったところ（聖地）などがあるが、アニメ等を見て訪れる人だけでなく、そもそもアニメ等を知らない人が訪れても、何らか現地で紐づける工夫を行い、家に帰ってからその関連のアニメ等を見るといった、逆の繋がりができるような仕掛けができれば良いと考える。
- ・「ひろめ市場」、「モネの庭」などは、他県には無い「全国唯一」の特徴をもっている

ので、そのここにしかないという点をしっかりアピールする必要がある。

- ・全国には「知らなかったが行ってみて知った名所」もあり、県外の人が県内のどこかの何に感動したのか、モニターツアーを行った時などにアンケート等で聞いて把握し、積極的に打ち出していけばいい。
- ・バイク乗りには「先端に行きたい」との特性があり、県内では足摺岬、室戸岬が該当するが、現地で「四国最南端」といったアピールをするとともに、先端に行った証になる、例えば「ダムカード」のような証明書のようなものがもらえるとなお喜ばれると思う。
- ・また、気持ちのいい道路を走りたいという欲求もあるが、県内には名前がなく番号だけの道路がほとんどなので、例えば「清流四万十ロード」といったように、道路に景観等をイメージさせる名称があると良いのでは。また、せっかくの景観を邪魔する木があれば伐採するなど価値を高めるケアも必要だと思う。

(北古味部会員)

- ・NHK連続テレビ小説「らんまん」は、年配の方が多く楽しみにしている印象がある。ターゲットに向けた部分とし、キーワードとして健康や地域を生かしたスポーツツーリズムに繋がるような仕組み作りを検討していただければ。
- ・日本人にサステナブルは浸透しにくいと思う。言葉自体が一人歩きするのはハードルが高いと感じる。伝統・文化などのサステナブルな観光地は日本人には普通すぎる。その点、海外からの観光客が酒蔵を訪問した際に、質問が非常に多い。興味を持っており、事前に勉強してきている。そのようなことからサステナブルという言葉にささるのは、海外の方が多いと考える。
- ・また、四万十町では、生姜プロテインの作成をクラウドファンディングで行い、成功している。
- ・地元の素材等を使って成功した若い事業者などの例が多くあるので紹介したい。

(松山代理)

- ・資料3のリョーマの休日キャンペーンの事業展開で、酒蔵巡りオンラインバスツアーの記載があるが、清酒には季節感がある。季節に応じた酒蔵巡りをお願いしたい。
- ・二次交通については、観光客が入りやすくなるよういろいろと工夫しないと行けないが、バス協会では、昭和53年からあえて、紙のポケット版の県下の乗合バスの時刻表を作成し、無料で配布しているが、お遍路さんやバスで県内を巡りたいと県外からの旅行者の要望で郵送したこともあり、これからも継続したい。
- ・また、観光地に特化した路線での運行については、様々な機関と連携しないとバス事業者、協会単独では厳しい。

(鈴木観光政策課長)

- ・オンラインバスツアーについては、動画を見ていただいて、実際に行った気持ちになっていただくツアーであり、夏、秋、春と3つの季節で楽しめるようにしている。高知の水の豊かさやそれぞれの季節の旬やお酒をPRする企画として、動画を見ていただいた後で、実際に足を運んでいただく。

(鎌倉部会員)

- ・「土佐龍馬であい博」はパビリオンを設置しての、「ふるさと博」ではイベントを実施する博覧会であった。
NHK連続テレビ小説「らんまん」は、こういった博覧会にするつもりなのか。
- ・以前に、「わざわざ行こう」というキャッチコピーで高知県への誘客を図る取り組みを実施したが、「らんまん」で一定数が高知には来てくれると思うので、その高知に来た人をいかに県内周遊させるかが大事になってくるだろう。「せっかく来たんだったら〇〇を食べてみて」というキャッチフレーズを用いたテレビ番組があるが、そのようなPRの切り口が良いのではないかと考える。

(山脇観光振興部長)

- ・パビリオンは作らないが、資料4-1「連続テレビ小説を生かした博覧会基本計画の概要」にある、1層に記載している3つの施設をまず来る場所にするための企画など、ブラッシュアップしていく。
- ・問題はここに来てそのまま帰られないように、案内機能を強化し、2層3層に誘客していく。
- ・こうち旅広場を年内に改修して、デジタルサイネージを設置してリアルタイムで旬の草花の見頃情報、ライブカメラなどで情報発信を行う。桂浜公園もグランドオープンに向けて、インフォメーション機能を強化したいと考えている。
- ・今までやっていなかった、2層目の草花ガイドの育成について、市町村と調整をしているが、単にガイドだけでなく、地域の食や観光資源の紹介の役割も担っていただく事を条件として、県の補助金を出すようにしている。
- ・3層目の拠点施設については、周辺のまだ知られていない観光スポットなどを紹介していくようにしている。

(森部会員)

- ・草花ガイドについて、高知県観光カレッジ修了生に草花ガイドの育成をすれば、即戦力で活用できるので、是非、連携をお願いしたい。

(別府地域観光課長)

- ・ガイドの皆さんがしっかりと魅力を伝えるとともに、周辺の観光施設を紹介し、案内してもらうことも重要と考えている。カレッジの修了生は地域の情報は知っていると思うので、草花の知識や牧野博士のエピソードを学べる研修会等は予定しているのでぜひ参加いただき、博覧会で活躍していただきたい。

(山脇観光振興部長)

- ・養成講座については、相当多くの方が参加してくれている。もともと草花に詳しい人ばかりではなく、地域の方などが多く参加している。今後、第2回、第3回の養成講座には是非参加いただいて現地で、案内できるガイドを増やしたい。1回目の導入編では、オンラインを含め200人を超えた。皆さん関心を持っているので、更に講座の機会を増やしたい。

(森部会員)

- ・大阪の同友会との交流を予定しており、万博の話となった際に、博覧会協会は万博の機運醸成を課題としていた。そのため、高知県が先行事例として動いてもらいたい。

県としてブースを出そうという話はまだどこも進んでいない。現在、大阪事務所に動いてもらっている。

- そのため、観光ショーケースのような全国均一のイベントでは高知県が先行している。今後、県が単独ブースを出せば、良い先行事例となり、2年後3年後に向けてアドバンテージ取れると考える。
- 10/7に経済同友会で大阪観光局溝畑局長と濱田知事の対談を今後の起爆剤として予定している。是非、関西戦略や今後の関西・大阪万博での連携等を見据えて、多くの方にご参加いただきたい。

(三井部会員)

- インバウンドについて、コロナ前にクルーズ船の担当をしていたことがあったが、その中で気づいたこととして、アメリカの雑誌などで、行きたい観光地で徳島県の祖谷が人気となっている。高知に来たクルーズ船から祖谷に流れている。祖谷にあって高知にないものはないと考えている。そのため、高知を観光していただく工夫が必要ではないか。
- 海外の方は、四国を1つの街を観光するように認識している。そのため、他県との連携が必要となり、国内旅行とは、また違った切り口で考える必要がある。

(山脇観光振興部長)

- クルーズ船での観光は2種類あり、オプションツアーとフリーに動きたい方(シャトルバスで高知市内まで)に分かれる。
- ほとんどの方は高知を周遊している。また、四国についてもコロナ前、高松空港に中華航空が飛んでいた際には、高知まで来てくれていた。高松空港再開の動きもあるので、四国が一体となってセールス活動を実施する。

(天野部会長)

- 高知県観光リカバリーキャンペーンは、交通費に対する助成なので、非常にありがたい。
- 多くの観光客は、高知県は、遠く、交通費がかかると思っている。そのため、他県には無い、助成は非常に効果がある。
- JTBの宿泊データで、観光客は全国で6割まで戻ってきた。四国は7割であり、高知県は81%とリカバリーキャンペーンが大きく貢献している。高知県は、一度来るとリピーターとなるケースが多い。
- 一旦12/28までとなっているが、なんとか次年度もやっていただけるとありがたい。
- 県外の観光客に、認知されるまで時間がかかっている。やっと認識されはじめてきたところである。宿泊に伴うメリットもあるため、是非来年度もお願いしたい。

(山脇観光振興部長)

- 予算要求はさせていただく
- 例年観光振興部の当初予算は30億前後、今年は98億。増分の多くは観光需要喚起のためのキャンペーンに活用している。相対的な中で県の予算は決まってくるが、効果もあるということで観光振興部としても少しでも長く実施できるように、今後も要求はしていく。

(以上)